

「まいちゃん、ゆうくんと目があつたことある？」

げんかんにはいると、みっちゃんがきいた。

「うん、ない」

まいは、うんどうぐつをくつばこにしまう。

「じゃあ、ゆうくとちゃんとしゃべったこと、ある？」

「ない」

「あたしも、ないな。あ、りかちゃん、おはよう」

そういうと、みっちゃんほうわぐつをはきかけたまま、かけだした。まいも、あわてておいかける。

まいの学校では毎日、一時間目の前に、朝読書の時間と
いうのがある。まいは、いろいろな本を読むけれど、ゆう
くんは、かならず同じ本「はちゅうるいずかん」をえらぶ。
おととい、よしくんがさきに「はちゅうるいずかん」を
見ていたら、ゆうくんがわあっと泣きだした。「ぼくもこ
の本が見たい」と、よしくんがいても、ゆうくんは、サ
イレンみたいに泣きわめきつづける。けっきょく、よしく
んはプリプリおこりながら、ずかんをゆうくんにゆずって
いた。

今日のゆうくんは、はちゅうるいずかんを見ながら、な
にか小声でしゃべっている。よくきいてみると、

「ミシシッピアカミミガメ、ニホンイシガメ、カスピイシ
ガメ、リュウキュウヤマガメ、ギリシャリクガメ……」

本にでてくるカメの名前を読んでいるようだ。

「へえ、カメって、そんなにいろいろいるの？」

まいは感心していった。けれど、ゆうくんは、まいには
こたえず、たんたんと、カメの名前を読みあげている。

わたしの声、ゆうくんにきこえてるのかなあ。まいは、
ふしぎに思いながら、ゆうくんの横顔を見つめた。

一時間目の国語では、「野」と「雲」をならった。雨か
んむりがむずかしくて、まいは何度もけしごむでけて書
きなおした。ゆうくんのノートをそっとのぞくと、「野」
も「雲」も教科書そっくりのきれいな字で書いてあって、
まいはとてもびっくりした。

二時間目は音楽。たんにんの川本先生のひくオルガンに
あわせて、一年生でならった歌をうたった。ゆうくんはう
たわないのだけれど、体をゆらしてたのしそうにしている。
歌のあと、ピアノをふいた。二年生になって、はじめ
のピアノだ。オルガンにあわせて、みんなでドレミフ
アソラシドドシラソファミレドとふいていると、ゆうくん
の泣き声がきこえてきた。ゆうくんは手で耳をふさぎ、な
みだをこぼしている。

川本先生は、みんなにピアノをやめさせると、ゆうく
んのそばへいき、

「ゆうくん、ピアノの音、にがてなんだね。ごめんね」
と、しずかな声でいった。ゆうくんは、まだしゃくりあげ
ているけれど、耳をふさぐのはやめた。